

# Mémoires 2022

## 第39回 フェブラリーステークス(GI)



### 好タイムで連覇達成 カフェファラオ

前年のチャンピオンが、得意の東京ダートマイルコースの舞台で復活した。

JBCスプリントの覇者レッドゼル、マイルチャンピオンシップ南部杯を連覇したアルクトスなどの有力馬が顔を揃えた一戦。ここがダート2戦目で巻き返しを期す桜花賞馬ソダシの参戦も注目されていた。しかし勝ったのは、前年の覇者カフェファラオだった。

1年前にこのレースを勝利した後は、かしわ記念5着、函館記念9着、チャンピオンズC11着と不本意な走りが続いていたカフェファラオ。しかし3歳時にユニコーンSを制するなど過去3戦全勝と、「庭」と呼んでいほど得意にしている東京ダートマイルコースでの強さは、やはり別格であった。

3、4番手で外をスムーズに追走すると、直線で根岸Sの勝ち馬ティエムサウスダンを交わして、カフェファラオが先頭に立つ。同馬とは初コンビの鞍上の福永祐一騎手は、2021年末の香港スプリントで落馬事故に遭い、左鎖骨を骨折した。その休養中に届いた騎乗依頼を意気を感じ、陣営とチークピースの大きさに至るまで綿密な打ち合わせを行うなど、できる限りの準備をして臨んだ。

抜け出してから「馬の気持ちを切らさないように」とパートナーをエスコートし、最後まで集中した騎乗を続けた福永騎手は、復帰38戦目でのGI制覇。2馬身半差の完勝に、堀宣行調教師も「馬がよく走ってくれたし、ジョッキーも上手に乗ってくれました」とその細心の手綱捌きを称賛した。

脚抜きがいい重馬場が舞台だったこともあり、勝ちタイムの1分33秒8は堂々のコースレコードタイ。フェブラリーSの連覇は2014、15年のコパノリッキー以来、史上2頭目の快挙となった。

#### 第39回フェブラリーステークス(GI)

2/20 東京競馬場 1600m(ダート・左) 小雨・重 16頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/差	人気	通過順位
1	カフェファラオ	牡	5	57	福永 祐一	堀 宣行	1:33.8	②	④③
2	ティエムサウスダン	牡	5	57	岩田 康誠	飯田 雄三	2 1/2	⑤	①①
3	ソダシ	牝	4	55	吉田 隼人	須貝 尚介	1/2	④	②②
4	ソリストサンダー	牡	7	57	戸崎 圭太	高柳 大輔	クビ	⑥	⑤⑥
5	タイムフライヤー	牡	7	57	横山 武史	橋口 慎介	1 1/4	⑮	⑩⑩
6	レッドゼル	牡	6	57	川田 将雅	安田 隆行	1/2	①	⑧⑥
7	アルクトス	牡	7	57	田辺 裕信	栗田 徹	3/4	③	⑤⑤
8	サンライズノヴァ	牡	8	57	松若 風馬	音無 秀孝	1/2	⑫	⑬⑬
9	エアスピネル	牡	9	57	M.テム一口	笹田 和秀	1	⑧	⑬⑫
10	ミュウチャリー	牡	6	57	御神本訓史	矢野 義幸	1/2	⑩	⑩⑫
11	インティ	牡	8	57	武 豊	野中 賢二	1/2	⑦	⑬⑫
12	サンライズホープ	牡	5	57	大野 拓弥	羽月 友彦	3/4	⑭	②③
13	スワーヴアラミス	牡	7	57	松田 大作	須貝 尚介	1 1/4	⑨	⑩⑩
14	テオレマ	牝	6	55	C.ルメール	石坂 公一	クビ	⑬	⑬⑬
15	ダイワキャグニー	騾	8	57	三浦 皇成	菊沢 隆徳	1/2	⑬	⑤⑥
16	ケイティブレイブ	牡	9	57	菅原 明良	清水 英克	2 1/2	⑯	⑧⑨

単勝 ⑥510円 複勝 ⑥230円 ⑮310円 ⑩410円 枠連(3-8) 700円  
馬連 ⑥-⑮2,640円 馬単 ⑥-⑮4,690円 ワイド ⑥-⑮1,230円 ⑥-⑩1,980円 ⑩-⑮3,830円  
3連複 ⑥-⑩-⑮16,200円 3連単 ⑥-⑮-⑩76,940円

ハロンタイム 12.2-11.0-11.3-12.3-12.4-11.6-11.2-11.8  
通過タイム 600m⑥34.5-800m⑥46.8-1000m⑥59.2-1200m⑥1:10.8-1400m⑥1:22.0



#### 優勝馬:カフェファラオ

2017.3.3生 牡 鹿毛  
父: American Pharoah  
母: Mary's Follies  
母の父: More Than Ready  
生産: 米・Paul P.Pompa  
馬主: 西川光一氏